

令和3年度 秋田県立湯沢高等学校 総合的な探究の時間GET 発表概要一覧

班	湯沢市の課題	テーマ（仮説）	概要
1-a	人口減少に対応し、地域活性化に資するためのまちづくり	湯沢市の保育サービスをさらに発展させ、行っている保育サービスをもっと知ってもらうことで、湯沢市の少子化対策に繋がるのではないかと	湯沢市の現在の保育施策と、他の地域の保育施策の比較、また、湯沢高校1年生の保護者に保育施策の認知度アンケートを取り、子育て支援の広報をするパンフレットを作成した。そして、湯沢市の金銭面の支援の充実、湯沢市の行っている保育施策を活用してもらうための広報を提案する。
1-b		1、後継者の育成活動を行えば、担い手が増え、地域活性化につながるのではないかと 2、川連漆器の魅力を知ってもらうため、SNSやイベントで定期的な広報活動を行えばよいのではないかと	湯沢市の人口減少が進んでいる現状から、湯沢市の伝統工芸品の一つである川連漆器を使ってどのようにすれば地域活性化につながるかを調べて考察した。今の川連漆器は、職人不足や需要の低迷という課題があることがわかった。そこで後継者の育成活動や広報活動を行うことで地域活性化につながるのではないかと考えた。そして湯沢市の小中学校を対象に図工や総合の時間で沈金体験や蒔絵体験の実施、PR活動のため、湯沢市役所の一階のロビーなどでの展覧会の実施、Instagramを中心に写真を投稿することを提案します。
2-a	ふるさと湯沢と進学した学生との関係性を深めることについて	湯沢市に足りない魅力を市民の声から補い続けることで、若者にとって魅力的な市になり、県外に流出した若者が帰って来るのではないかと	湯沢市の現状を調べ、市が何を行っているのか確かめた。市では過去にアンケートを使い市民の声を聞く政策を行っていた。しかし、回収率は36.5%とあまり高くなかった。アンケート政策には、実際に効果があるので回収率低下の原因を調べた。そして、回収率が6割以上になるであろうアンケートを制作し、それを参考に新たなアンケート政策を行い住みやすい市にすることを提案する。
2-b		学生向けの産業観光ツアーを実施することで、ふるさと湯沢と学生との関係性を深められるのではないかと	現在の秋田県の大きな問題として人口減少が深刻であると考えた。出前講座を通してその問題を解決するためのキーワードとして「関係人口」、「地方創生」があるとわかった。そこで学生を対象としたインターンシップ、地域の産業や文化に触れてもらえばいいのではと考えた。具体的な結論として学生向けの二泊三日の産業観光ツアーを開催することを提案する。
3-a	災害に対する地域防災力を高めるためには	災害に対する意識調査を実施して、意識が足りない部分を明確にし、私達がその部分を市民に呼びかけることで、意識が向上し、被害の軽減につながるのではないかと	東日本大震災による死者では、30歳未満の若い人の死者が少なく、年齢が上がるにつれて増えている。（東日本大震災の死者の資料を用いたのは、秋田県内で多くの死者が発生するような災害が起きていないから）このことから、若い人は素早く避難できるため死者が少ないと考察した。そこで、小・中・高校生が災害に対する知識を持ち、高齢者など周りの人に避難を呼びかけたり、避難を手伝ったりすることで、被害にあう人が減らせるのではないかと考え、小・中・高校生向けのポスターやマニュアルを作成した。
3-b		安全器具に関するポスターを制作し、高校近隣のコンビニや、人の目の触れるところに設置し除雪の際の注意喚起を行えば、雪害は減るのではないかと	雪害について調べたところ、全国的に屋根の雪下ろしの際の死亡事故が多く、湯沢市豪雪地帯であり、一人暮らしの高齢者が多いため、安全器具の着用を呼びかけ、事故を減らしたいと考えた。実際に安全器具（命綱やヘルメット）を着用した場合と、着用しない場合の違い（安全性や、実際に使ってみて、使わないでの感想など）を比較し、ポスターを制作するなどして湯沢高校と湯沢市で協力し、高齢者の方に注意喚起を行う方法を提案したい。
4-a	日常生活が困難な高齢者世帯を支援するために	高齢者が健康に暮らすために、地域の人と交流する催しを実施することで、高齢者が地域の人と合う機会が増え、行動が活発になり、健康を目指すのでわかないかと	湯沢市の高齢者と共に交流し運動する機会を設けたいと思い、湯沢高校生とその祖父母を対象にアンケートをとり、高齢者の生活について調べた。実際に集まって催しをしようと考えたが、コロナウイルスの影響でリモートで集まる機会を設けることにより、高齢者の生活が改善されると考えた。よって、湯沢市にリモートで高齢者と運動する機会を設けることを提案します。
4-b		高校生にできる新介護サービスを考え行うことで、高齢者の生活はより豊かになるのではないかと	現在の湯沢市の介護サービスに目を向けてみて、十分に発展してるとは言えないと思い、高齢者の生活をより豊かにするために高齢者を対象として行った聞き込みの結果をもとに、高校生にできる新介護サービスを考えました。そして私たちが考えた新介護サービスを湯沢市に提案します。
5-a	デジタル化を利用した高齢者支援はできるか	デジタル機器を基軸として高齢者の生活のデジタル化を促進させることで生活が豊かになるのではないかと	現状の湯沢市のデジタル化がどこまで進んでいるかを調べるために、1月に湯沢の某スーパー内で高齢者に向けてアンケート活動を行った。その結果、自分たちの想像していたよりもデジタル機器は高齢者の中でも普及しており、実際に利用している人が大半だった。また、実際に利用している人から、実生活でも役立つという意見を多く頂いた。以上のことから、デジタル化のメリット（ここではインターネットを用いることで使うことのできる様々なアプリ・サービスを多くの高齢者に知ってもらうことで生活とより強く結びつき、豊かな生活へとつながると考えた。また、アンケート活動を行う中で、スマートフォンなどで配信されている様々なアプリやサイトを紹介するチラシを配る活動も行った。そこで、市役所などの多くの人が集まる場所に、我々の頒布したチラシや、デジタル化に関わることの記述されたポスターなどを掲載していただくことで、デジタル化を市全体に広げることを提案する。
5-b		デジタル化がどういうものなのかを広めることにより、デジタル化が進みやすくなるのではないかと	デジタル化を利用して湯沢市のことを広めようとしても、そもそもデジタル化が進んでないため広まらないということがわかった。そのため、次にデジタル化の利便性、必要性を広めることにより、少しでもデジタル化が進むのではないかと思いポスター配布とアンケート調査を実施した。その結果から湯沢市に住んでいる方はスマホを所持している人が多いが、情報検索やメール、電話ぐらしか利用していないことがわかった。それに比べ、電子マネーやSNSの利用はやはり少ないことから、そこを重点的に解決していく必要があるとわかった。



班	湯沢市の課題	テーマ（仮説）	概要
6-a	孤立する高齢者を見守り、支えるために地域でできることは	フレイル予防の知識について広めることで、高齢者の健康を維持し、孤立する高齢者を減らすことができるのではないか	要介護の一手手前であるフレイル状態を解消することで、健康で活動的な高齢者の方が増え、孤立する高齢者が減ると考えた。そこで、フレイル予防の方法や湯沢市の取り組みについて調べたり、フレイル予防のための献立を考えたりした。これらのことをチラシにまとめて湯沢市の高齢者に配ることで、フレイルを予防する方法を知り、実践してもらおうことができるのではないかと考え検証した。さらに、これらのことをより多くの人に知ってもらうため、湯沢市の高齢者や高校生が参加できる「フレイル予防教室」の開催することを市に提案する。
6-b		湯沢市に住む高齢者のために地域で交流する機会を設けると孤立が解消され、地域の意識を高めることができるのではないか	湯沢市での交流の場の現状から、どのような交流の場が高齢者にとってより良いのか調べたいと思い冬休み中に稲川のスーパー内にある交流の場でお話を伺った。また、他県の孤立する高齢者に向けた取り組みを調べた。そして、湯沢での高齢者の見回り活動+交流の場の宣伝で、より良い環境の交流の場について知ってもらい、実際に利用する人を増やそうと市に提案する。
7-a	健康を維持するために	インタビューやアンケートなどを行い、それらをもとに自分たちが考えた運動面や食事面で健康につながることを発信することで、健康に対する意識が高まりフレイル予防になるのではないか	加齢によって心身の活力が低下するフレイルになる高齢者が多く、筋力低下や低栄養状態に陥る人が多い。そのため、私達は運動面や食事面におけるフレイル予防のために、湯沢市内の公共施設でチラシ配りを行った。また、湯沢高校の先生方と生徒の保護者約90名に日々の運動面・食事面についてのアンケートを行った。これらの取り組みから得られた情報から、私たちは基本的な生活習慣を私たちがのような身近な人々から行動に移し発信するということを提案する。
7-b		若い段階から、食事、運動、社会参加などのフレイル予防対策を行えば、将来フレイルになる人が少なくなるのではないか	フレイルの予防対策として、インターネットから主に食事、運動、社会参加があることを知り、特に運動と社会参加の対策に着目して湯沢高校の1年生を対象にアンケートを行った。インターネットの情報やアンケートの結果を元に、将来フレイルになる人を少なくするため、若い世代から高齢者まで誰でも簡単に、毎日継続してできるようなフレイルの予防対策を考えた。
8-a	豪雪を乗り越えた果樹農家を応援するために	りんごのレシピを商品とともに中に入れ、それを見てもらうことによって、購買意欲を高め、より多くの人に買ってもらえるようになり、リピーターも望めるのではないか	湯沢市の農家を支援するために農家の実際の被害内容とその額や県で実施している対策についてインターネットを用いたり、実際に農家をやっている方に質問して調査した。また、実際にどのようなりんご料理があるのか調べ、自分たちでも作ってみて味などについても確認した。そして、より広い範囲の店舗で仮説のような活動が行われるように市で広めていただき、より多くの人に買ってもらおうことを市に提案する。
8-b		販売用の果物に加えて、廃棄予定の果物も販売する工夫を考え、提案することで果樹農家さんの損害をカバーすることができるのではないか	秋田県の豪雪被害はどれだけ対策しても免れない。そこで、対策ではなく損害のカバーに繋がる方法を考えることにした。まず傷がついて廃棄する果物をできるだけ低コストで加工できるレシピを考え試作した。次に自分たちで試作した加工品をレシピカードにまとめた。そこから、低コストでできる加工品とそれらをまとめたレシピカードを訳あり商品につけて販売することを提案する。
9-a	地場産業を有効活用し、メジャーにしていくには	アルバイト制度を若者の心に刺さるような、新しい方法で発信すれば、若者が地場産業のアルバイトに興味・関心を持つのではないか	湯沢市では、魅力のあるものが沢山あるのにあまり広がっていない。そこで、若い人にも湯沢市の地場産業を知ってもらうためには、アルバイト制度を実施することが効果的ではないかと考え、調査した。
9-b		湯沢の特産品を広めていくために、商店街を舞台としたスタンプラリー型のイベントを行えば良いのではないか	湯沢市の特産品の知名度にはばらつきがあったため、イベントを行えばより多くの人に湯沢市の特産品を知ってもらえるのではないかと考え、他県の特産品に関するイベントについて調査し、どのようなイベントが効果的かを考えた。その結果、商店街を舞台としたスタンプラリー型のイベントを行うことを市に提案する。
9-c		地元食材を使った食品を開発し、SNSで発信すると、その食材が有名になり湯沢のPRにつながるのではないか	湯沢市は酒所であり、日本酒の製造が盛んである。日本酒製造の過程に出てくる酒粕は栄養価が高く、その酒粕を使った食品を開発すれば湯沢のPRにつながると考察した。また、班のSNSアカウントを作成し、酒粕の情報を発信すればさらなる効果が得られると考えた。結論として、酒粕をいかした食品を開発し、SNSを通じて発信することで湯沢をPRすることを提案する。
10-a	経営者や職人の高齢化による人手不足、後継者不足問題	後継者不足解消のために、インターネットを活用したPRを実施すると、興味を持つ人が増え、問題が解消されるのではないか	伝統工芸品の後継者不足問題について、産業が活性化するためには若者に興味を持ってもらうことが必要だと考え、SNSで発信するのが効果的だと考えた。また、川連漆器伝統工芸館で職人さんなどのお話をもとに、学校で体験事業を行えば、興味を持つきっかけ作りとして効果的だと考えた。
10-b		snsを使った広告、販売を行うことで、最も効率に湯沢の伝統工芸品や活動自体を全国に知ってもらえるのではないか	伝統工芸館の後継者不足を解決するために、伝統工芸品や湯沢市の知識を得るためにそれら現状を調べた。また、伝統工芸品に対する若者の考えを得るためにアンケートを実施した。そして、湯沢市の伝統工芸品を川連漆器にしぼり、川連漆器伝統工芸館に行き、体験を行ったり、職人さんのお話を聞いた。そこででた課題を整理し、上記の仮説を立てた。しかし、厳しい現状のあまり高校生だけの活動では成果をあげるの難しいと考え、湯沢高校生、市、職人で伝統工芸品を守るための合同活動である伝統工芸再興プロジェクトを提案させていただく。
11-a	アフターコロナに向けた体験型観光の推進	様々な効果的なPR方法を考え全国に湯沢市の魅力を発信すれば湯沢市が盛り上がり様々な問題解決に繋がるのではないか	湯沢市は様々な問題を抱えている。しかし、湯沢市は広大な土地や伝統、多くの自然を持っている。これらを生かすために有効なSNSやメディアなどをそれぞれの長所と短所と有効だと考えられる使い方と共に提案する
11-b		季節特有の体験プランやオンラインでの体験プランなど、新しい観光のスタイルを実施することで、観光客の増加を見込めるのではないか	湯沢市の観光資源や現状について調べ、現状について考えられる根拠からどんな対策が効果的かを考えた。その結果、季節特有の体験プランとオンラインでの体験プランの実施を提案する。
12-a	体験型の教育(スキルアップ)を図るために	学校と地域が絡みでプログラミング学習を行うことで、論理的思考力が身につくのではないか	これからの時代、論理的思考力が必須になると思い、そのためには論理的思考力や創造性、問題解決能力を養うことができるプログラミング学習が最適だと考えた。さらにそのプログラミング学習を学校と地域が絡みで行うことで学校と地域のつながりが強まりそのような取り組みを行っている市として湯沢市の知名度も上がる、その結果湯沢市の活性化につながると思った。内容的に仮説を実際に検証することはできなかったが、実証しているデータを調べ、それを参考に湯沢市と地域の人たち、小学校の連携のしかた授業の内容や進め方などを考えそれを市に提案する。
12-b		外国との交流で様々な価値観にふれ、自分の考えとのギャップを知ることで、思考能力が上がり、普段の授業や話し合いに活かせるのではないか	まず最初に今の日本の教育の現状を調べ、その中で今の日本では英語の教育が遅れているという事に気づき次にALTの先生であフィッシャー先生のもとに質問をしにいき今の日本の英語教育はどのように見えているのかいづつかしにいき答えてもらいました。質問していく中で出た班の考えは、英語授業の中に書くだけの授業だけでなくグループ活動を中心としたディスカッションの授業や外国とのリモートディスカッションを提言します。